

神戸大学附属中等教育学校

地球安全保障への提言を目指す 「グローバルキャリア人育成神戸モデル」

【構想の概要】

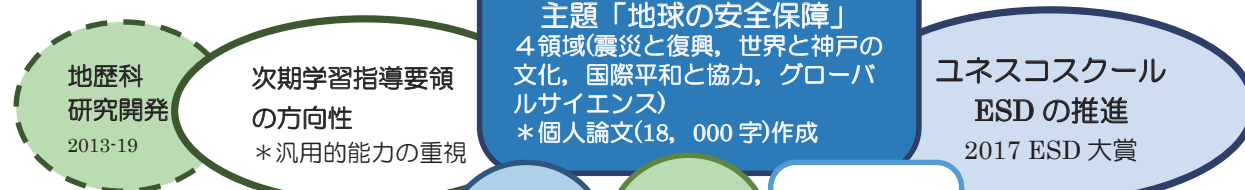
国立大学附属学校及びユネスコスクールとしての特色を活かした次の3点を核とする「グローバルキャリア人育成神戸モデル」の開発と実践

- ① 課題研究を核とする教科横断型体系的グローバル人材育成カリキュラムの開発
- ② 国内外での圧倒的なグローバルアクションプログラムの実施
- ③ 高大一体による実践を支える確かな調査研究の推進

I 育てたい生徒像 グローバルキャリア人

II 教科横断型カリキュラム

(1) コア (課題探究力育成の要)

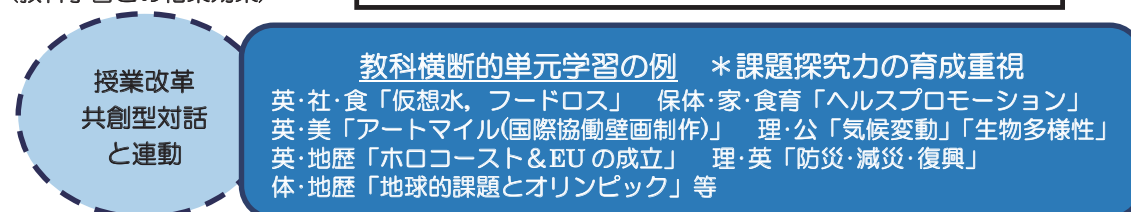


(2) ブリッジ

(課題研究と教科をつなぐ)

(3) ブランチ/教科内探究

(教科学習との相乗効果)



III 教育課程表

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
総 合	探究入門 2 単位	探究入門 2 単位	課題学習 2 単位	課題研究Ⅰ(入門) 2 単位	課題研究Ⅱ 1 単位	課題研究Ⅲ 1 単位
合科的			公民「ESD」 1 単位	現社「国際理解」 1 単位		
各教科	教科横断的・教科内の「探究学習」					
	基礎期		充実期（中高互換）		発展期	
特 活	学校行事（文化祭、宿泊行事）等を活用したグローバル・アクション・プログラム（GAP）					
課 外	自主活動、応募型研修、セミナー等を活用したグローバル・アクション・プログラム（GAP）					

1 教科横断的カリキュラムの構造

本校 SGH の研究主題は、SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた ESD を強く意識した「地球安全保障への提言を目指す『グローバルキャリア人育成神戸モデル』」である。研究主題の追究は、教科横断的な「課題研究」と教科学習の両立によって推進すべきと考え、次の三層構造によるカリキュラムを編成している。

(1) 課題探究力育成の要「課題研究」

前期課程（中学相当）の Kobe プロジェクト（グループ調べ学習）を基盤に、「課題研究」Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでは、生徒の個人研究による 18,000 字以上の論文提出を義務付けている。下記 4 領域からさらに研究テーマを絞り込み、課題探究力の育成を図っている。

- A 震災・復興とリスクマネジメント
- B 国際都市「神戸」と世界の文化
- C 提言：国際紛争・対立から平和・協力へ
- D グローバルサイエンスと拠点都市「神戸」

さらに、課題探究力を「見つける力（発見）」「調べる力（調査）」「まとめる力（概括）」「発表する力（発表）」及びすべての力につながる「考える力（思考）」に分類化すると共に、各「力」に対応したルーブリックを作成し、課題研究論文の評価規準・基準を明確にしている。

(2) 課題研究と教科をつなぐ仕組み

課題研究の円滑な遂行のためには、「地球の安全保障」に関する基本的な学習が必要であることから、本校では前期課程社会科・後期課程公民科の枠内に「ESD」「国際理解」（通称）を置き、一部合科的学習を導入して、課題研究と教科学習をつなぐ実践を試みている。

また、グローバル・アクション・プログラム（GAP）では、海外研修（米・越・台・英・カンボジア）、国内交流活動（海外交流協定校の受入れ、宮城研修他）、各種セミナー等 40 以上の事業を実施しており、課題研究を支える特別活動・課外活動における探究的取組に位置付けている。

(3) 教科学習との相乗効果

本校では、「カリキュラム・マネジメント」が強調される以前から、研究部及び各教科を中心に教育課程の検討を重ねてきた。

特に SGH 指定にあたっては、汎用的能力育成を視野に入れ、教科の教科教育目標を改訂し、次期学習指導要領の方向性にほぼ合致した取組を

行ってきた。教科内探究（主題）学習では、「課題探究力」育成を「思考力」と「実践力」をつなぐものとして、教科教育目標の中に位置付けている。実践的には、「地球の安全保障」に関連した探究（主題）学習を各教科（一部合科）で単元展開する場合が多い。また、前身校（附属住吉中学校）の協同学習の伝統を活かしつつ、「共創型対話（主体的・対話的で深い学び）」を重視した授業改革に取り組んでいる。

教科における探究（主題）学習の展開は課題研究に役立つと同時に、課題研究が教科における探究学習にも寄与しており、「相乗効果」が上がっていることが生徒・教師の意識調査等から読み取れる。

2 教科における探究的学習例

教科内における探究的な学習の例として、以下の実践例がある。また、複数教科科目が連携しながら同テーマの単元学習を並列実施する場合がある。

- 「国語総合」：総合単元「授業改革への提言」
- 「コミュニケーション英語Ⅰ」：仮想水、フードロス
- 「地理総合」：水資源、地域共同体
- 「歴史総合」：戦争回避不能地点
- 「現代社会」：移民問題、気候変動
- 「地学基礎」：気候変動 「生物基礎」：生物多様性
- 「保健」＆「家庭基礎」：ヘルスプロモーション
- 「コミュニケーション英語Ⅰ」＆「美術」：アートマイル（国際協働壁画制作）
- 「地学基礎」＆「地理総合」＆「コミュニケーション英語Ⅱ」：防災・減災・復興
- 「コミュニケーション英語Ⅲ」＆「歴史総合」：ホロコースト＆EUの成立
- 「体育」＆「歴史総合」：地球課題とオリンピック
- 「情報の科学」：問題解決とコンピュータの活用、等

3 大学と連携した検証作業

本校 SGH と生徒の「グローバル意識」との相関については、神戸大学の石川慎一郎教授や林創准教授の協力を得て、テキストマイニングや批判的思考力テストを導入した独自の方法で評価・分析を行っている。検証では、SGH 事業がグローバル意識の育成に貢献していることはもとより、「課題研究と教科学力」及び「課題研究と批判的思考力」には、高い相関関係があることが判明している。詳しくは、本校『SGH 研究開発実施報告』（第 1 年次～第 3 年次）を参照されたい。